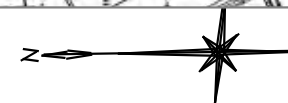


経営体育成基盤整備事業 美里地区 概要図



凡 例	
	地 区 界
	受 益 区 域
	区 画 整 理
	暗 渠 排 水
	用 水 路
	排 水 路
	耕 作 道

技術検討会委員からの事前意見及び意見への回答(経営体育成基盤整備事業 美里地区)

番号	発言者	該当項目	意見等	回答
1	大熊委員	一枚概要の「目的」	本地区では、一次整備以降に(本事業と同様の)整備は行われているのか。 また、(本地区に限った質問ではないが)整備後の農地において一部で排水不良等営農上の不具合が発生した場合、補修等の対応はできるのか。	確認結果及び回答 本地区において、1次整備以降に整備は行われておりません。 また、整備後の対応は、施設に関しては施設管理者である土地改良区にて維持補修を行っています。農地においては地区工期内で湧水等による排水不良であれば対応可能と考えます。
2	大熊委員	一枚概要の「目的」	ハード整備を行うに当たっては、完了後の営農等を踏まえたソフト対策も講じられているのか。	回答 厚真町では完了後においても、農業後継者育成・新規就農者の推進に関する事業や新技術導入(水稻直播、ICTなど)に関する事業などを幅広く実施しております。 本地区においても、地域の担い手が経験と技術を活かして、新規就農者を支援する「新農業者育成協議会」の構成員となり、新規就農者の技術的支援者となる協力体制を整えています。
3	井上委員長	一枚概要の「概要」	関連事業のダム名は、「厚真ダム」ではなく、「厚幌ダム」の誤りではないか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 厚真ダム (修正後) 厚幌ダム
4	中原委員	一枚概要の「実施状況」	実施状況の区画整理のコメントにおいて、「地下水位が高いことから生産性や農作業機械に支障をきたしている」は、農作業機械の何に支障をきたしているのかが分かるよう、例えば「農作業機械の利用にきたしている」としてはどうか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 狭小で不整形なほ場で地下水位が高いことから生産性や農作業機械に支障をきたしている (修正後) 狭小で不整形なほ場で地下水位が高いことから生産性や農作業機械の <u>利用</u> に支障をきたしている
5	中原委員	一枚概要の「実施状況」	実施状況の区画整理のコメントにおいて、「排水性が解消された大区画となり」は、排水が良くなるとともにほ場が大きくなったことが分かるよう、例えば「排水条件が向上し、かつ大区画となり」としてはどうか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 排水性が解消された大区画となり、農作業の効率化が実現した (修正後) 排水性が <u>向上し</u> 、 <u>かつ</u> 大区画となり農作業の効率化が実現した
6	佐久間委員	基礎資料と評価結果書の「3(1)農作物の生産量の変化」	牧草の作付面積が増えているが、地区内では水稻+小麦・大豆の他、酪農・畜産経営を行う農家もいるのか。酪農・畜産経営体がないのであれば、牧草の供給先はどこになるのか。	確認結果 複合経営の農家はいませんが、地区内に1戸の畜産農家(肉牛繁殖)がいます。牧草の用途は、1戸の自給飼料と他の地区の畜産農家に供給しています。

技術検討会委員からの事前意見及び意見への回答(経営体育成基盤整備事業 美里地区)

番号	発言者	該当項目	意見等	回答																																																																						
7	佐久間委員	基礎資料と評価結果書の「3(1)農作物の生産量の変化」	地区内の生産構造変化の主要因が分かるよう、大豆や小豆の作付面積が大きく減っている理由を記載した方が良い。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) この他、牧草は近年の配合飼料価格の高騰などにより作付けが大きく増加した一方で、豆類は減少している。 (修正後) この他、<u>本地区においては農地の大区画が図られたこと及び近年の配合飼料価格の高騰などにより畜産農家が賃貸で牧草の生産を始め、自給飼料と地区外の畜産農家に供給したことに伴い、豆類は減少している。</u> ※厚真町の豆の現況作付面積(H26)は、大豆428ha、小豆430haを生産しており、生産目標(H32)も大豆430ha、小豆300haの増産かつ単収を増やし安定した収量・品質を推進しています。 よって、厚真町全体として生産構造の変化はないと考えています。																																																																						
8	佐久間委員	基礎資料と評価結果書の「3(2)営農経費の節減」	労働時間の変化において、水稻以外の作物(小麦、大豆、小豆)はそれほど大きな節減ではない一方、これらの作物は、作付面積の減により生産量が減少している。このため、営農経費が節減する効果は作物生産の減少による効果によって相殺され、それほど効果が出ていないのではないか。	確認結果 小麦、大豆、小豆等は作付減少により粗収益額も減少しているが、牧草やほうれんそうの作付増加や全ての作物の単収増加により地区全体では粗収益額は増加している。また、基盤整備(大区画化)に伴い、営農経費節減額の大きい水稻の作付けが増加しているため、地区全体としても水稻をはじめ、各作物の営農経費節減効果が発現しています。 <table border="1"> <tr> <th colspan="3">【効果説明資料より】</th><th></th><th></th></tr> <tr> <th colspan="3">作物生産効果(千円)</th><th colspan="2">営農経費節減効果(千円)</th></tr> <tr> <th>作物名</th><th>増加粗収益</th><th>(うち作付増減)</th><th>作物名</th><th>新設年効果額</th></tr> <tr> <td>水稻</td><td>17,261</td><td>(3,994)</td><td>水稻</td><td>172,425</td></tr> <tr> <td>小麦</td><td>△ 541</td><td>(△ 5,117)</td><td>小麦</td><td>8,748</td></tr> <tr> <td>大豆</td><td>△ 4,161</td><td>(△ 4,850)</td><td>大豆</td><td>1,071</td></tr> <tr> <td>小豆</td><td>△ 7,119</td><td>(△ 7,285)</td><td>小豆</td><td>199</td></tr> <tr> <td>かぼちゃ</td><td>△ 7,104</td><td>(△ 7,104)</td><td>かぼちゃ</td><td></td></tr> <tr> <td>ほうれんそう</td><td>8,636</td><td>(7,681)</td><td>ほうれんそう</td><td>2,238</td></tr> <tr> <td>ブロッコリー</td><td>5,346</td><td>(5,346)</td><td>ブロッコリー</td><td></td></tr> <tr> <td>大豆(畑)</td><td>186</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>小豆(畑)</td><td>△ 499</td><td>(△ 693)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>ばれいしょ(畑)</td><td>△ 3,245</td><td>(△ 3,245)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計</td><td>8,760</td><td>(△ 11,273)</td><td>計</td><td>184,681</td></tr> </table>	【効果説明資料より】					作物生産効果(千円)			営農経費節減効果(千円)		作物名	増加粗収益	(うち作付増減)	作物名	新設年効果額	水稻	17,261	(3,994)	水稻	172,425	小麦	△ 541	(△ 5,117)	小麦	8,748	大豆	△ 4,161	(△ 4,850)	大豆	1,071	小豆	△ 7,119	(△ 7,285)	小豆	199	かぼちゃ	△ 7,104	(△ 7,104)	かぼちゃ		ほうれんそう	8,636	(7,681)	ほうれんそう	2,238	ブロッコリー	5,346	(5,346)	ブロッコリー		大豆(畑)	186				小豆(畑)	△ 499	(△ 693)			ばれいしょ(畑)	△ 3,245	(△ 3,245)			計	8,760	(△ 11,273)	計	184,681
【効果説明資料より】																																																																										
作物生産効果(千円)			営農経費節減効果(千円)																																																																							
作物名	増加粗収益	(うち作付増減)	作物名	新設年効果額																																																																						
水稻	17,261	(3,994)	水稻	172,425																																																																						
小麦	△ 541	(△ 5,117)	小麦	8,748																																																																						
大豆	△ 4,161	(△ 4,850)	大豆	1,071																																																																						
小豆	△ 7,119	(△ 7,285)	小豆	199																																																																						
かぼちゃ	△ 7,104	(△ 7,104)	かぼちゃ																																																																							
ほうれんそう	8,636	(7,681)	ほうれんそう	2,238																																																																						
ブロッコリー	5,346	(5,346)	ブロッコリー																																																																							
大豆(畑)	186																																																																									
小豆(畑)	△ 499	(△ 693)																																																																								
ばれいしょ(畑)	△ 3,245	(△ 3,245)																																																																								
計	8,760	(△ 11,273)	計	184,681																																																																						
9	佐久間委員	基礎資料と評価結果書の「4(1)①農業生産性の向上」	事業実施前に比べ単収が向上しているものの、計画は下回っている。計画まで単収が向上していない理由は何か。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 本事業及び関連事業での用水路の整備による、安定的な農業用水の確保及び排水路や暗渠排水の整備による排水条件の向上により、全ての農産物の単収が増加するなど、農業生産性の向上が図られている。 (修正後) 本事業及び関連事業での用水路の整備による、安定的な農業用水の確保及び排水路や暗渠排水の整備による排水条件の向上により、全ての農産物の単収が増加するなど、農業生産性の向上が図られているが、<u>評価時点(H28年産)は7月後半から9月にかけて降水量が多く、また日照不足により、想定していた計画単収まで向上しなかった。</u>																																																																						

技術検討会委員からの事前意見及び意見への回答(経営体育成基盤整備事業 美里地区)

番号	発言者	該当項目	意見等	回答
10	宗岡委員	基礎資料と評価結果書の「4(1)①農業生産性の向上」	本地区の水稻の現況単収は、道内の他地域と比較すると低いように思われるが、その理由は何か。	確認結果 美里地区の現況は、昭和39年～45年に国営事業で整備されているものの、大部分の小用排水路や暗渠排水は未整備の状態であり、他の地区よりも整備水準が低かったと思われる。 また、畦畔は深水に対応できる高さに確保されておらず、田越しによるかんがいが行われていた区域もあったため適切な水管理ができず、さらに排水路は土水路で断面・切深不足による排水不良であったため、冷害や湿害を受けやすく、米の収量・品質が良くありませんでした。
11	大熊委員 佐久間委員	基礎資料と評価結果書の「4(2)①担い手の体質強化」	認定農業者は増えているようだが、認定農業者の年齢構成はどのようになっているのか。また、地区内では農業生産法人による営農は行われていないのか。	確認結果 認定農業者15名の年齢構成は、40歳から50歳までが1名、50歳から60歳までが4名、60歳以上が10名であり、60歳以下の割合では3分の1を占めています。また、農業生産法人については、現在のところありません。
12	佐久間委員	基礎資料の「4(2)①担い手の体質強化」	一般的には、事業を契機に専業農家へ農地が集積され、規模拡大がなされていくものの、本地区では専業農家の減少率が兼業に比べ高いが、この要因は何によるものか。小規模な専業農家、例えば高齢の専業農家が減っていることが大きな要因ではないか。	確認結果 本地区の専業・兼業の年齢構成は、兼業農家に比べ専業農家が高齢であったため、小規模な専業農家の離農が進み、兼業農家については年齢層が比較的若かったため、減少率に差が生じたものと考えます。
13	大熊委員	基礎資料と評価結果書の「4(2)②産地収益力の向上」	産地収益力の向上として、ブランド米の取組が記載されているが、ここにあるブランド米の出回り先等はどのようになっているのか。	確認結果 厚真町で生産された米は、たんとうまいステーションに集約されて、玄米に加工後、ホクレンに出荷し、精米されたものを袋詰めして出荷、販売されています。 たんとうまいの販売は、胆振東部Aコープやホクレンショップ、苫小牧市内の小売店で販売されるほか、神奈川県や関東スーパー等に出荷していますが、たんとうまいのネーミングでは販売しておりません。 そのほか、苫小牧市近郊のホテル、飲食店、苫小牧発新日本海フェリー内、ウトナイ道の駅、ふるさと納税特産品として供給されています。 また、さくら米は、Aコープあつまで販売されるほか、厚真町内の学校給食や福祉施設、ふるさと納税特産品などに供給されています。
14	中原委員	基礎資料と評価結果書の「4(2)②産地収益力の向上」	「また、本事業による・・・産地収益力の向上が図られている。」は記載のとおり地域農業を展望していく上で重要である。そのため、高収益作物の栽培農家数や年齢構成はどの様になっているのか。	確認結果 栽培農家数は、ほうれんそう、ブロッコリーともに1件の農家で栽培されています。 年齢構成は、ほうれんそう栽培が52歳、ブロッコリー栽培が60歳となっています。 ほうれんそうは、施設栽培となるため設備投資に経費を要しますが、ブロッコリーは、露地栽培であるため初期投資は抑えられます。 ただし、両方とも高等な栽培技術を要することから技術習得が必要になります。

技術検討会委員からの事前意見及び意見への回答(経営体育成基盤整備事業 美里地区)

番号	発言者	該当項目	意見等	回答
15	井上委員長	基礎資料と評価結果書の「4(2)②産地収益力の向上」	「地区内で生産された米はブランド米として販売され高付加価値化が図られている」とあるが、例えば1等米の比率が増えているなど、品質自体が向上していると言えないか。	確認結果、意見を踏まえ記載内容を修正 JAとまこまい全体の1等米の比率は、基盤整備の効果もあり、平成29年度、平成28年度ともに100%となっています。ただし低タンパク(6.8%以下)については、成長段階の気候条件等により年度によって差が生じています。 (修正前) …地域であり、地元で生産された高品質米は、「さくら米」や「たんとうまい」などのブランド米として販売されており、高付加価値化が… (修正後) …地域であり、平成28、29年産の1等米の比率は100%となっており、地元で生産された高品質米は、「さくら米」や「たんとうまい」などのブランド米として販売され、高付加価値化が…
16	中原委員	基礎資料と評価結果書の「4(2)③6次産業化の取り組みと雇用の創出」	ここで整理されている文章は、農家女性の積極的な副業的取組として評価できるが、「雇用の創出」までは言えないのではないか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 6次産業化の取組と雇用の創出 (修正後) 6次産業化の取組
17	井上委員長 波多野委員	基礎資料と評価結果書の「4(3)事業による波及効果等」	「水稻の直播栽培」が導入されているとあるが、どのくらいの規模(面積)で取り組まれているのか。また、直播栽培を行うため、地下かんがいシステムを導入していると聞くが、本地区も導入しているのか。	確認結果 水稻直播は、本地区で行われていませんが、厚真町内では、平成29年度13.9ha、平成28年度9.5ha栽培されており、年々増加傾向にあります。 なお、地下灌漑システムは、平成23年度以降の採択地区から集中管理孔の整備を行っているため、直播栽培の活用までに至っていない状況です。(暗渠管の洗浄のみ活用)
18	井上委員長	基礎資料と評価結果書の「4(3)事業による波及効果等」	「RTK-GPS自動操舵」が導入されているとあるが、どの程度(台数)の規模なのか。	確認結果 厚真町において6台のRTK-GPSを導入しており、その内美里地区には1台が導入されています。6台の内、田んぼが4台、畑が2台となっています。

技術検討会委員からの事前意見及び意見への回答(経営体育成基盤整備事業 美里地区)

番号	発言者	該当項目	意見等	回答
19	大熊委員	基礎資料と評価結果書の「5事業実施による環境の変化」	自然環境に関する配慮について、消極的な対応のように感じられる。 環境配慮は、基盤整備と相反する内容となることは承知しているが、もう少し積極的な取り組みとして記載できないか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 本事業の実施にあたっては、厚真町の田園環境整備マスタープランに基づき、汚濁水の排出防止 や低排出ガスの重機の使用に努め、周辺環境への負荷がかからないよう配慮した。 (修正後) 本事業の実施にあたっては、<u>どじょう等の生息が確認されたことから、排水路工事に際して汚濁水が下流に流出しないよう土のう等による仮回し水路の設置をするとともに、余裕のある工事計画により降雨時の施工を回避するなどの配慮を行った。また、事業実施後には目視にてどじょうの生息を確認している。</u> ※排水路の施工にあたっては実際は土のうによる仮締切にてポンプアップし下流へ排水、排水の際しては沈殿槽などを活用し(路線によりますが)汚濁水を直接流さないように配慮。
20	大熊委員	基礎資料と評価結果書の「6今後の課題」	本地区ではGPSを利用した自動操舵などの導入により効率的な営農が行われているが、新たな機械の導入に当たっては、操作技術の取得などの支援も併せて必要となるのではないか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 (修正前) 地区内では、本事業によるほ場の大区画化や担い手への農地集積を契機に、効率的な土地利用型農業が展開されているものの、今後、更なる農業者の高齢化や後継者不足等による労働力不足が予想されることから、農業後継者や新規参入者を対象とした支援制度を充実・強化する取組を進め、引き続き担い手の育成・確保を図っていく必要がある。 (修正後) 地区内では、本事業によるほ場の大区画化や担い手への農地集積を契機に、効率的な土地利用型農業が展開されているものの、今後、更なる農業者の高齢化や後継者不足等による労働力不足が予想されることから、<u>GPS等を利用したICT農業に係る操作技術指導や、農業後継者及び新規参入者を対象とした支援制度を充実・強化する取組を進め、引き続き担い手の育成・確保を図っていく必要がある。</u>

技術検討会委員からの事前意見及び意見への回答(経営体育成基盤整備事業 美里地区)

番号	発言者	該当項目	意見等	回答
21	中原委員 波多野委員	基礎資料と評価結果書の「7事後評価結果」	厚真町では、ジュースの加工や観光農園などハスカップを利用した6次産業化にも取り組んでいると聞いたことがあるので、取組内容について確認し、この点についても記載してはどうか。	意見を踏まえ、記載内容を修正 【今後の課題等】 (修正前) 地区内では、本事業によるほ場の大区画化や担い手への農地集積を契機に、効率的な土地利用型農業が展開されているものの、今後、更なる農業者の高齢化や後継者不足等による労働力不足が予想されることから、農業後継者や新規参入者を対象とした支援制度を充実・強化する取組を進め、引き続き担い手の育成・確保を図っていく必要がある。 (修正後) 地区内では、本事業によるほ場の大区画化や担い手への農地集積を契機に、効率的な土地利用型農業が展開されているものの、今後、更なる農業者の高齢化や後継者不足等による労働力不足が予想されることから、GPS等を利用したICT農業に係る操作技術指導や、農業後継者及び新規参入者を対象とした支援制度を充実・強化する取組を進め、引き続き担い手の育成・確保を図っていく必要がある。 <u>また、本地区の更なる産地収益力の向上を図るため地域の特産品の一つであるハスカップの導入を行うとともに、6次産業化の一層の推進を図る必要がある。</u>